

留 学 報 告 書

記入日:2014年11月4日



所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部経済学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ノースイースタン大学 現地言語: Northeastern University
留学期間	2013年8月～2014年4月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	経済学部
帰国年月日	2014年4月26日
明治大学卒業予定年	2016年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月上旬～12月中旬 2学期:1月上旬～4月下旬
学生数	13,200人
創立年	1898年

留学費用項目	現地通貨(\$)	円	備考
授業料	0	0円	支払い義務無し
宿舍費	8,800	88万円	
食費	6,000	60万円	
図書費	800	8万円	
学用品費	0	0円	
教養娯楽費	1,000	10万円	
被服費	0	0円	
医療費	0	0円	
保険費	900	9万円	形態:明治大学指定の保険に加入
渡航旅費	2,000	20万円	
雑費		円	
合計	19,500	195万円	

渡航関連

渡航経路: 東京→ボストン(直行)

渡航費用

チケットの種類 往復

往路 _____

復路 _____

合計 20 万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

無し

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

大学寮

2) 部屋の形態

 個室 OR 相部屋(同居人数 3 人)

3) 住居を探した方法:

現地大学による割り振り

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

部屋をシェアする事はストレスも多いが、学ぶ事も多かった。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

 利用する機会が無かった 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

交換留学生の担当者

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

人が少ないところはあまり歩かないようにする。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学中に wifi が飛んでおり、非常に快適なネット環境。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

キャッシュパスポートを発行し、基本的にはそれを使って生活していた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特になし

進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input checked="" type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。 ノースイースタン大学への編入
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
28 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 22 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economics of Crime	犯罪経済学
科目設置学部・研究科	Economics
履修期間	2013/09/05~2013/12/15
単位数	4
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Prof. Alper
授業内容	ミクロ・マクロをベースに、アメリカにおける犯罪の持つ経済的影響等を分析する。
試験・課題など	中間試験、期末試験、週1回のクイズ
感想を自由記入	アメリカの大学ならではの講義内容で、非常に興味深いものであった。また、毎週行われるクイズが成績の 25%を占めるため、予習・復習を書かず事の出来ない授業だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
International Business and Global Social Responsibilities		国際ビジネスと社会的責任	
科目設置学部・研究科	International Business		
履修期間	2013/09/05~2013/12/15		
単位数	4		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	グループワーク中心の講義		
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回		
担当教授	Prof. Goldberg		
授業内容	ケーススタディーをベースに、世界の政治・経済と関連させながら、ビジネスにおける意思決定に必要な要素を学ぶ。		
試験・課題など	筆記試験 4 回、グループプロジェクトに関連するプレゼンやレポート等		
感想を自由記入	アメリカの大学で頻繁に行われる、ケーススタディーをベースにしたビジネスの授業であった。個人のプロジェクトと同時に、グループでのプロジェクトもあり非常に忙しい授業だったが、その分様々な事を学ぶ事が出来た。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Innovation!		イノベーション	
科目設置学部・研究科	Entrepreneurship		
履修期間	2013/09/05~2013/12/15		
単位数	4		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	グループプロジェクトと講義		
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回		
担当教授	Prof. Seidel		
授業内容	スタートアップに必要な知識や視点を、世界の起業家の例を使いながら学ぶ。また、実際に製品のプロトタイプを作成したり、街頭アンケートを取ったりする等、クラス外での課題も与えられる。		
試験・課題など	プロジェクトのプレゼンとレポート×3、個人レポート×2		
感想を自由記入	日本の授業とは異なり、常にグループで課題を進めていく形式のため、うまく協力することが求められる。また、受講者の中には既に自分でビジネスを始めている人も多くいて、良い刺激を受ける事が出来た。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
International Economics		国際経済学	
科目設置学部・研究科	Economics		
履修期間	2014/01/07~2014/04/25		
単位数	4		
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義		
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回		
担当教授	Prof. Myra		
授業内容	国際貿易におけるいくつかの主な理論を扱う。また、世界で起きている経済的な諸問題に関連するビデオも見ながら、自分の意見をディスカッション形式で発表する。		
試験・課題など	中間試験、期末試験、毎週のレポート、プレゼンテーション(1回のみ)		
感想を自由記入	本講義で扱った国際貿易の理論についての背景知識があったため、試験等は特に問題なくなす事が出来た。また、毎回見るビデオはどれも興味深く、面白い講義だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Globalization	グローバルゼーション
科目設置学部・研究科	International Affairs
履修期間	2014/01/07-2014/04/25
単位数	4
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回
担当教授	Prof. Ivanis
授業内容	世界で起きている貧困や戦争等の問題を、様々な角度から分析する。 また、先進国と発展途上国の力関係はどこから来ているのかを歴史をさかのぼりながら紐解く。
試験・課題など	中間試験、期末試験、クイズ×5,レポート×2
感想を自由記入	講義の内容自体はとても興味深かった一方で、毎授業出されるリーディングの量が膨大だったため、少し苦勞した科目だった。また、不定期に出されるクイズはその日の新聞から出されるため、毎日 iPhone でニュースをチェックしていた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Peoples and Cultures	人々と文化
科目設置学部・研究科	Sociology and Anthology
履修期間	2014/01/07~2014/04/25
単位数	4
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Prof. Lisa
授業内容	社会における性別や宗教等の働きを、文化人類学の視点から、いくつかの主要な理論を用いて分析する。
試験・課題など	中間試験、期末試験、毎週のレポート
感想を自由記入	自分の専攻とは直接的に関係ないが、アメリカからみた世界の文化的関わりを学びたいと思い履修した。民族問題や宗教問題等を扱う事が多く、それまであまり自身に馴染みの無かった分野を深く学ぶ事が出来た。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Elementary Italian	イタリア語
科目設置学部・研究科	World Languages Center
履修期間	2014/01/07~2014/04/25
単位数	4
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回
担当教授	Prof. Alessio
授業内容	イタリア語初心者のための授業。文法や会話表現等を 1 から学ぶ。
試験・課題など	筆記試験×4,口頭試験×2
感想を自由記入	元々イタリアの食や服が好きで、イタリア語が喋れたらよりイタリアに親しむ事が出来る と思い履修した。授業以外では、イタリア人の友達と会話をし、日常会話が出来るレベルまで到達する事が出来た。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	大学推薦決定/TOEFL の勉強を始める
4月～7月	TOEFL の勉強/一回目の TOEFL 受験
8月～9月	引き続き TOEFL 対策/体同連サッカー部大会
10月～12月	2回目の TOEFL 受験/協定校留学で Northeastern へ出願
2013年 1月～3月	Northeastern への留学内定
4月～7月	Northeastern から合格通知が届く/予防接種・ビザ取得・航空券の手配等
8月～9月	渡米/現地での生活開始
10月～12月	中間、期末試験/NY への旅行
2014年 1月～3月	後期授業開始/Northeastern への編入を決意
4月～7月	期末試験を終え帰国/3 回目の TOEFL を受験(編入用)/ 明治大学前期授業履修
8月～9月	ベンチャー企業や外資系金融情報会社にてインターンシップを行う。 Northeastern への編入のための準備(エッセイ・教授推薦状等) ※ ダブルディグリーとして出願するため、両大学の学位取得可能
10月～12月	明治大学後期授業/Northeastern からの正式な合格通知受理/ 明治大学と Northeastern 大学の双方へ留学書類手続きを行う

留学体験記

留学しようと決めた理由	幼い頃から洋楽や洋画を通じて英語に親しんでいたこともあり、将来は絶対に留学するぞと自分の中で自然と決めていました。同じ環境に身を置き続ける事を嫌う性格もあり、高校生の頃には、早く外へ出て色々な経験を積みたいと強く思うようになりました。また、この時期から、「今の自分の英語力では世界の優秀な学生に太刀打ち出来ない」という強い危機感を持ち始めました。友人関係や仕事において広く選択肢を持てるという意味でも、英語を使えるということは人生の財産になると思い、アメリカへの留学を決めました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	志望する大学に留学するには、まずはその大学が定める TOEFL 等の基準を満たさなければなりません。資格試験で少しでも高い点数をとれるように勉強することが大切です。そして、現地大学で学びたい事の周辺知識を留学前に勉強しておくことも大切だと思います。背景知識があるのと無いのでは、理解に大きな差が出ます。留学中に勉強面で苦労しないためには、特にリーディングとライティングに慣れておく事が重要だと思います。渡航前からしっかりと取り組むことが必要です。
この留学先を選んだ理由	元々、留学するならばアメリカだと決めていました。特に、アメリカ東海岸で学生生活を送ることへの憧れがありました。いくつかある協定校の選択肢の中で、東海岸に位置し、様々な名門大学が集結するボストンに位置するという基準から、ノースイースタン大学を選びました。また、全米大学ランキングでの順位が年々上昇していることも知っていたので、留学中にその勢いを感じられる良いタイミングだと思い、一層ノースイースタンへの思いが強まりました。また、ボストンに多くの友人がいたことも理由の一つです。
大学・学生の雰囲気	大学は常に活気に溢れている印象でした。特にアメリカ国外から来ている生徒が数多く在籍している大学のため、世界中の異なるバックグラウンドを持った人達が一つの街を形成しているようで、日本とは全く違う環境でした。また、カフェテリアにいけば世界各国の食事を楽しむこともでき、異文化交流も盛んでした。生徒の多くは勉強に遊びにいつも一生懸命で、そのメリハリはとても参考になりましたし、生徒全員に「やるときはやる」という精神が根付いているように思いました。
寮の雰囲気	私が住んでいた寮は9階建てで、比較的綺麗でした。部屋は、いずれも3~4人でシェアし、いわゆる典型的なアメリカの大学の寮生活といった雰囲気でした。ハロウィン等のイベントの際には、寮長を担当する学生が主体となり、様々な催し物が開かれ、とてもアットホームな寮でした。また、私の寮はキャンパスのど真ん中に位置しており、寮を出て3分程で教室に着くという立地は寒い冬の日には本当に助かりました。
交友関係	ボストンには留学前から数多くの友人がいたため、渡航してすぐの頃は彼らと一緒にいることが多かったです。生活に慣れてきてからは、同じ授業の人や、ジムで仲良くなった人たちとパーティーに言ったり、ご飯を食べにいたり積極的に交友関係を広げました。週末は基本的に友人と遊ぶ事が多かったため、そこで様々な人に出会い、留学後も頻りに連絡をとったり、お互いの国に旅行し合ったりというような関係を築いています。また、ボストンにはハーバードや MIT をはじめとする数多くの名門大学があるため、他大学の友人も多く作りました。
困ったこと、大変だったこと	異文化に慣れる事や友人を作る事、生活のペースをつかむ事などは時間の経過とともに自然とできます。しかし留学中いつも付きまっていたのは、事務的な手続きの問題です。アメリカの大学は、縦割りの事務管理が多く、日本に比べて遥かに効率が悪いです。留学当初はそのことで焦ったり心配になることも多かったのですが、こんなものだと割り切るようになってからは特に問題を感じなくなりました。留学を通じて、どんなことも柔軟に対応する姿勢と何があっても動じない強いメンタルを得たように思います。
学習内容・勉強について	現地では経済学部部に所属していましたが、交換留学生は履修科目の分野に制限がなかったため、ビジネスや起業の授業も履修していました。留学中、授業のスピードについていけないという事はありませんでしたが、授業時間外での学習には多くの時間を割きました。また、授業によっては毎週小テストやレポートが合ったので、毎日何かしらやる事があったのを覚えています。そして、分からない箇所があれば必ず教授に会いにいき直接話すことで解決していました。数多くいる生徒の中で、存在を認識してもらい名前を覚えてもらう事は、良い成績を取る上でも重要な事だと思います。

課題・試験について	課題の量は授業によって異なりますが、いずれもさぼれば試験前にそのしわ寄せがくるという感じでした。成績評価は試験・レポート・プレゼン・授業参加度などで総合的に評価されるので、良い成績を取るためには全ての項目で高評価を受ける必要があります。授業では、毎回一回は発言するように心がけていました。また試験前は、ひたすら図書館で勉強していました。現地の図書館は24/7だったので、自分で納得がいくまで机に向かっていました。
大学外の活動について	留学中は、現地の友人達とサッカーチームを作り、毎週末試合をしていました。チームには、ボストンで働く日本人の方も多く在籍していたので、進路の相談など大学生活では得る事の出来ない意見・考えに触れられる機会としても活用していました。西海岸と比較するとボストンは日本人が少ないので、縦と横両方の繋がりを形成できたのは非常に有意義でした。 その他には、ボストンの大学生により運営されるスタートアップのコミュニティーに所属し、同世代でビジネスをしている人たちとのネットワーク作りもしていました。
留学を志す人へ	留学はゴールではありません。漠然としていてもいいので、将来どうなりたいかというイメージを持っておくだけで、留学中の過ごし方が大きく変わると思います。私自身、留学は将来への通過点だという意識で過ごしていました。そして留学に行くと、「同世代でもこんなにすごい人達がいるのか」という危機感を持つと思います。それを肌で体感するためには、まずは日本を出なければなりません。留学は色々な気づきを与えてくれる良い機会になります。高いモチベーションを持って、留学のチャンスを勝ち取ってください。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業		授業	授業			サッカー練習
	授業	起床	授業	授業	起床	起床	友人とランチ
午後	予習・復習	授業	予習・復習	授業	買い物	友人との交流	課題
	予習・復習	授業	予習・復習	授業	予習・復習	友人との交流	課題
夕刻	ジム	ジム	ショッピング	ジム	ジム	友人との交流	ジム
夜	ルームメイトと料理	ルームメイトと外食	早めの就寝	友人とディナー	パーティー	パーティー	課題